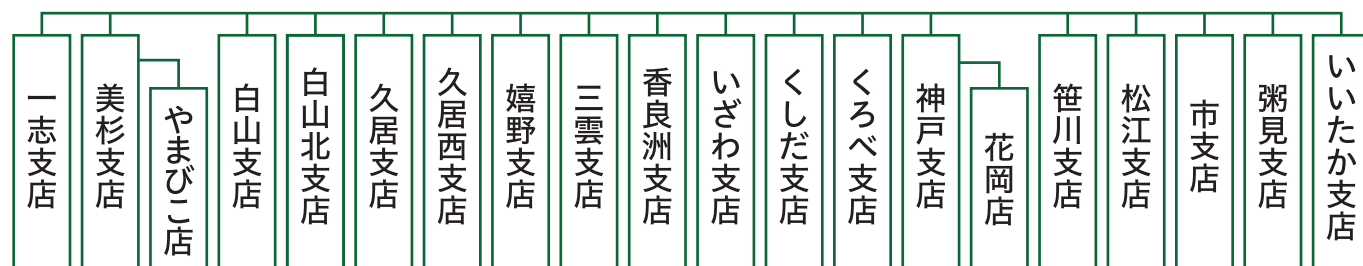


新たな活動拠点としての支店の目指す姿

「総合事業」「地域密着」「親しみ」といったJAらしさは、今後も変わらない原点としつつ、将来の事業環境の変化を見据え、限られた経営資源の再配置を行い、新たな活動拠点として地域の特性に応じた支店づくりを目指します。

- ①組合員・利用者・次世代層のライフプランに寄り添った相談機能の強化を図ります。
- ②デジタル技術を活用した利便性の向上を図ります。
- ③地域住民が集まるコミュニティの場を目指します。

新たな店舗体制(金融店舗数20店舗)



体制整備対象店舗と実施時期

体制整備対象店舗		新支店体制	店舗展開	実施時期
粥見支店 深野店	➡	粥見支店	既存店舗活用	令和9年度
笹川支店 大足店	➡	笹川支店	新 店 舗 設 置	令和10年度～11年度
市支店 港 店	➡	市支店	既存店舗活用	令和11年度
神戸支店	➡	神戸支店	新 店 舗 設 置	令和11年度～12年度
花岡店	➡	花岡店	既存店舗活用	令和12年度～13年度
松江支店 伊勢寺店 阿坂店	➡	松江支店	新 店 舗 設 置	令和13年度～14年度
一志支店 波瀬店	➡	一志支店	既存店舗活用	令和14年度

※新店舗設置の支店については、名称を見直す場合があります。

※体制整備実施前には、対象地区への説明会の開催を予定しています。

今後もJAみえなかでは組合員の皆さまとの「対話」を大切にしながら、組合員・地域の皆さまと共に「食」「農」「くらし」を守ってまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

JAみえなかの 新たな活動拠点の構築について

JAみえなかが誕生して5年が経過しました。合併により組織体制が強化されたことで、事業面では組合員支援、安定的な事業サービスの提供、計画的な修繕・投資による施設の維持、経営面では、合理化・効率化による生産性の向上、財政基盤の強化を図ることができました。

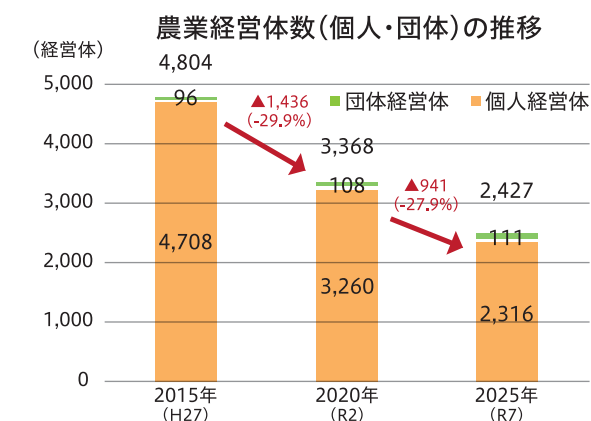
一方、この5年間で農業やJAを取り巻く環境は大きく変化しています。継続的に組合員や地域の課題をサポートし、貢献し続けられる組織であるためには、経営状況が安定している今こそ新たな活動拠点の構築に取り組んでいくべきであると考えています。

JAみえなかを取り巻く環境変化

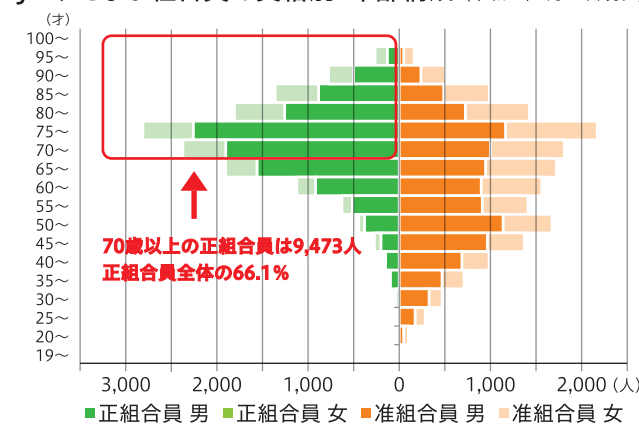
1 農業を取り巻く環境変化

農業者の高齢化が進行し減少する中、担い手農家への作業負担が増し、地域農業の維持に大きな影響を及ぼしています。JAの経営面では、肥料農薬等の生産資材価格の高止まり等により、農業関連事業の収支悪化が懸念されます。

このような厳しい環境の中で、JAの使命として営農支援を継続していくためには、JA全体として効率化・合理化を進めていく必要があります。



JAみえなか組合員の資格別・年齢構成 (令和8年3月31日現在)



2 正組合員の状況

農業者の減少に伴い正組合員も減少しています。JAの事業利用度が高い正組合員が減少すれば、JAの収益の柱である信用共済事業の取扱高にも影響し、全体収益・組織力の低下が懸念されます。

引き続き、正組合員世帯の複数組合員化を進めながら、農業・地域の発展を農業者とともに支えるパートナーとして、准組合員との関係強化にも取り組む必要があります。

3 JAみえなかの現況

事業利益はこの5年間で安定した状況が続いています。これからも将来を視野に入れ情勢の変化に対応し、持続可能な経営基盤の確立に向け取り組んでいく必要があります。

以上のことから新たな店舗運営体制を考えました。店舗整備にかかる投資や業務整理、対象地区への十分な説明の時間を考慮し、段階的に進めてまいります。

